

かさくくるま



CLOSE UP 中村地域連携センター長 退任のご挨拶



脳神経センタースタッフ

CLOSE UP

- 脳神経センターご紹介
- 脳神経外科のご紹介
- 脳神経内科のご紹介
- 新任医師のご紹介

INFORMATION

- 連携医療機関のご紹介「医療法人社団銀杏会 さっぽろ銀杏会記念病院」
- 市民公開講座 開催報告



市立 札幌病院

● 基本理念

すべての患者さんに対して その人格・信条を尊重し つねに“やさしさ”をもって診療に専心する

● 役割

- ① 高度急性期病院として地域の医療機関を支える。
- ② 地域医療支援病院として地域の医療機関を支える。
- ③ 北海道・札幌市の将来の医療を担う人材を育成する。
- ④ 良質で安心できる医療・サービスを安定的に提供する。

● 役割を実現するための6つの基本目標

- ① 市民の命を守るため、他の医療機関からの受け入れ要請を断らない医療を実現します。
- ② 地域の医療機関と緊密な連携体制を構築します。
- ③ 医療を担う人材を育成するとともに、先進医療に貢献します。
- ④ 医療の質を常に向上させます。
- ⑤ 患者サービスを充実させ、より快適な療養環境を実現します。
- ⑥ 業務の効率化を徹底し、健全な財政基盤を確保します。

中村地域連携センター長 退任のご挨拶

地域連携センター長としての5年間を振り返る

まず初めに、地域連携センター長として、市立札幌病院に日頃よりご協力いただいている地域の皆様に心より感謝申し上げます。2021年4月より市立札幌病院の副院長兼地域連携センター長を務めてまいりましたが、その当時、札幌市は“コロナ第4波”に突入し、Alpha株が急増している最中でした。医療連携の基本は「顔の見える関係」であると、以前から強く感じていました。しかし、直接お会いすることが難しい状況下で、どのように連携を構築していくべきか、途方に暮れたことをよく覚えています。訪問活動が制限される一方で、当院としては“病院一丸となってコロナ治療にあたる”という大きな使命がありました。その中でも「今できることを確実に行う」という姿勢を大切に、コロナ治療を通じて地域を守るとともに、今後の地域医療をどう発展させるかを常に考えていたように思います。



日本心臓血管外科学会専門医・国際会員・評議員、日本胸部外科学会認定医・指導医・評議員、胸部外科修練指導医、日本外科学会専門医・指導医・認定医、腹部ステントグラフト実施医、日本冠疾患学会FJCA、日本循環器学会認定循環器専門医、日本医師会認定産業医

地域医療の成功のカギは、やはり“信頼関係の構築”に尽きると考えています。救急だけでなく、診断や治療に難渋する患者様を、地域のクリニック・病院の先生方が「最後のとりで」として当院に託して下さる——その期待に応えることが最も重要だと思ってきました。

コロナ禍でも、診療情報提供書や電話による連絡は可能です。それらを確実にするには、当院での治療内容が必ず紹介元の先生方に届くことが欠かせません。当時、多忙を理由に「返書はできる範囲で」という風潮があったのは否めません。これでは、せっかくの治療内容が患者様にも紹介元にも伝わらず、連携の深化にはつながりません。そこで地域連携センターで話し合い、まずこの意識改革に取り組みました。地域連携スタッフは1人1人のカルテを丁寧に確認し、治療内容が伝わっていない医療機関への返書を各科の先生に依頼するという、地道ではありますが非常に重要な業務を続けてくれました。その積み重ねにより、各科の先生方の意識も徐々に変わり、今では多くの科で転科があっても必ず診療情報提供書を作成するようになり、返書率100%を達成した科も過半数となっています。これは一例にすぎませんが、「市立に送れば、なんとか対応してくれる」と地域の先生方に思っていただけのように、病院全体として努力することが地域医療連携の原動力になると実感しています。その結果として、逆紹介も増え、多くの医師の積極的な地域訪問や講演会の開催、そしてDr to Drの推進にもつながりました。

もちろん、地域の先生方からお叱りを受けることもまだまだありますし、経営面の課題も山積しております。それでも、市立札幌病院が地域の中で以前より信頼を得つつあるのではないかと——そう感じられるのは、地域連携部門の皆さんをはじめ、多くの方々のご協力のおかげです。心より御礼申し上げます。

今後、2050年に向けて札幌市は人口減に転じる前段階として高齢化率がさらに上昇する局面に入ると予測されています。地域全体で高齢者医療を支え合うことが、より強く求められる時代になるでしょう。医療の分化・専門化が進む中で、相互連携はますます重要となります。ID-Linkをはじめとする医療DX化も必要ですが、そのための体制整備には国の支援も欠かせません。高齢者や社会的弱者が少しでも暮らしやすい街となるよう、市立札幌病院がさらに発展していくことを願っています。

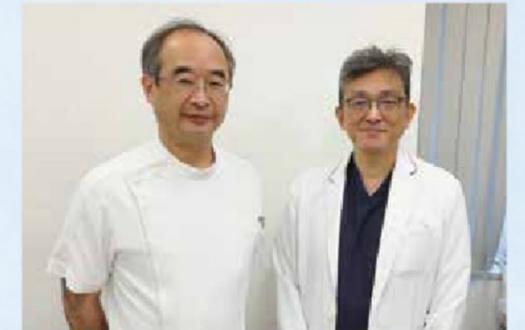
地域連携センターも、まるで大谷選手の優勝コメントのように、「We are ready to get another ring next year. Let's go! (来年もまた多くの紹介患者を受ける準備はできています。ぜひどんどんお送りください!)」と胸を張って言える存在でありたいと思います。

最後になりましたが、私事ながら、2026年3月をもちまして副院長・地域連携センター長を退任いたします。市立札幌病院での16年間、本当にありがとうございました。地域の先生方、患者様、そして地域連携のメンバーの皆さまには、言葉では言い尽くせないほどのご協力を賜り、心より深く感謝申し上げます。地域連携センターはこれからも、地域医療の発展に寄与するという使命を忘れず、着実に前へ進んでまいります。今後とも、変わらぬご指導とご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

脳神経センターご紹介 脳神経外科 × 脳神経内科

脳神経センター長：水戸泰紀（脳神経内科部長）

地域医療における医療機関の機能分化、連携強化の必要性に対する当院の新たな取り組みとして、2011年度に脳神経疾患に対し脳神経内科、脳神経外科の枠を超えて患者さんのためにより高度な医療を集学的に実施できるように脳神経センターが開設されました。急性期脳卒中でのt-PA血栓溶解療法や血管内治療、悪性腫瘍に伴う脳神経症状の外科的病理組織学的診断と治療、パーキンソン病と正常圧水頭症との鑑別と専門的治療、将来的な脳神経内科疾患に対する機能的脳神経外科治療など、より連携が必要な疾患に対するきめ細かな治療も可能となり、看護体制、患者さんへのサービスアップにも大きな意義があったものと考えています。また、当院での研修を希望されるかたにも他施設とは異なった有意義な研修が可能になったと考えています。これからも更に発展していくべき組織体制ですので、患者さん、医療スタッフ、開業医の方々からも、指導をいただかなければなりません。



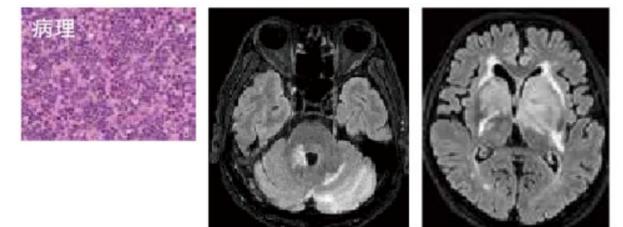
左:脳神経内科 水戸 泰紀 部長 右:脳神経外科 三上 毅 部長

脳神経センターでは下記のようなケースに対応してきました。

脳神経内科に初診となりましたが、脳神経外科、放射線診断科、病理診断科、血液内科、皮膚科に協力して関わっていただき診断に至りました。当院の強みとして、各診療科がハイレベルな診療技術をもったエキスパートの集団でありながら、垣根が低く相談しやすい環境にあるということです。それによって短期間で診断し治療を開始できるという自負があります。どうかこれからもご紹介いただけますと幸いです。

脳神経センターの症例

70代男性・亜急性経過で進行する認知機能障害精査で脳神経内科紹介受診、脳MRIで多発脳病変を認めた。血液検査・全身造影CT・脳脊髄液検査・皮膚生検で異常所見なく診断に難渋した。脳神経外科で脳生検（小脳）施行し、病理所見から中枢神経原発びまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の診断、血液内科で化学療法を開始となる。



脳神経内科と脳神経外科が集まるstrokeカンファレンスの様子

脳神経外科のご紹介

市立札幌病院 脳神経外科部長 三上 毅



資格等 日本脳神経外科学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医、日本脳卒中の外科学会技術指導医、日本てんかん学会専門医・指導医、日本神経内視鏡学会技術認定医、日本がん治療認定医、日本定位機能脳神経外科学会機能的定位脳手術技術認定医

昨年4月に当院へ着任し、約2年が経ちました。札幌市には大学病院をはじめ多くのハイボリューム施設があり、その中で当院がどのような役割を担うべきかを常に考えております。着任当初は、コロナ禍の影響で患者数が大きく落ち込んでいましたが、経営層の先生方や地域連携スタッフのご支援を受けながら、脳神経外科の診療機能強化に取り組んでまいりました。当院の伝統を尊重しつつ進めてきたつもりですが、時に“斜め45度”の発言をしまふこともあり、そのたびに院内の先生方に助けていただいております。連携施設の皆様には多くの患者さんをご紹介いただき、心より御礼申し上げます。現在は、受け入れ困難例をできる限り減らすよう努めており、月約20件の手術を行っています。2年を経て、当科の得意分野も次第に明確になってまいりました。第一に、脳神経内科とのシームレスな連携により、複雑で診断が難しい神経疾患に対しても適切な治療につなげることが可能になっています。また、腎不全合併例や小児外傷、下垂体・内分泌腫瘍については、前任の瀧上先生が築かれた強固な院内連携により、当院の強みとして発展しています。さらに、小児科や放射線治療科のご理解をいただき、これまで取り組んできた「もやもや病」や「AVM(脳動静脈奇形)」に関しても専門外来を立ち上げ、紹介患者数が増加しています。最近では、AVMの定位放射線治療も開始いたしました。余談ではありますが、先日ChatGPTに「札幌市のおすすめ脳神経外科」を尋ねたところ、なんと市立札幌病院を候補の一つとして挙げてくれました。機械学習を強化していただいた方々にも、この場を借りて感謝申し上げます。

当科のスタッフですが、今年度は新たに笹尾明日翔先生と坂下恭也先生を迎えました。笹尾先生は手術に非常に熱心で、表現がユニークな面があり、時折いじられています。持ち前のタフさで日々精力的に取り組んでいます。坂下先生は強面ですが、驚くほど真面目で、むしろ“生きづらい”か心配になるほどです。坂下先生の加入により、カンファレンスではより細部まで踏み込んだ議論がなされるようになり、スタッフ向け勉強会も積極的に開催してくれています。鈴木先生は手術の技術が着実に向上し、今では私の右腕として活躍しています。堀田先生は血管内治療や外傷手術の件数を増やし、昨年以上に意欲的に取り組んでいます。

こうした仲間たちの頑張りを後押しすべく、私も日々“営業活動”に励んでいます。その一環として、インスタグラムを開設しました。札幌市との半年にわたる協議の末、現在は【公式】札幌市広報部にもフォローしていただいております。現時点では勉強会・講演会・論文発表などの広報を中心に発信していますが、今後は仲間たちの社会貢献活動を広く知っていただくとともに、記録として残していきたいと考えております。ぜひフォローしていただければ幸いです。

脳神経外科 スタッフ紹介



左から堀田祥史医師、鈴木比女副医師、三上毅部長、笹尾明日翔医師、坂下恭也医師

令和6年度 手術実績

手術名	件数
慢性硬膜下血腫	26
脳腫瘍摘出術	25
脳動脈瘤クリッピング術	19
STA-MCAバイパス+EMS	13
水頭症手術(シャント手術)	13
機械的血栓回収療法	12
その他	
合計	175



市立札幌病院
脳神経外科
Instagram

脳神経外科ダイレクトコール
TEL 080-7195-1063
(24時間)

脳神経内科のご紹介

市立札幌病院 脳神経内科部長 水戸 泰紀



資格等 日本神経学会専門医・指導医、日本脳卒中学会専門医・指導医、日本内科学会認定医・総合内科専門医、北海道大学客員准教授

私たち脳神経内科が担当する領域は、脳・脊髄・末梢神経・筋肉です。これらの症状を内科的に診療する部門です。神経疾患は神経特異的な症状のみではなく、多彩な身体症状を来すことがあり、診療には広範な医学知識が必要とされます。

診療は、疾患ごとの診療ガイドラインに準拠し、さらに個々の患者さんの状況に合わせ、きめ細やかな医療の提供を心がけています。病院には筋電計、脳波計、エコー機器が装備されており、ベッドサイドでの検査、診療に迅速に対応できる体制を整えています。さらに内科的薬物治療に加え、神経、筋機能回復のためのリハビリテーション医療、在宅医療支援、地域医療連携にも力を注いでいます。

脳神経内科疾患についてはcommon diseaseから神経難病まで広く対応しますのでどうぞ気軽に御相談ください。

脳神経内科で対象となる症状は以下のようなものがあります。

- 頭痛がする
- 話にくい、呂律が回らない、飲み込みにくい
- 手足の動きが鈍い、力が入らない、手足の筋肉がやせてきた
- 手足がしびれる、感覚が鈍い、痛みがある
- 動作が鈍い、歩くとふらつく、歩きにくい、転びやすい
- 手足が勝手に動く、ふるえる
- ものが二重に見える、まぶたが下がる
- 物忘れ、計算ができなくなった、字を読んだり書いたりできなくなった
- 意識がなくなる、けいれんがある
- 手足の筋肉がつっぱって、指が握ったままの状態になって開きにくい、肘が曲がり、着替えづらい、足先が足の裏側の方に曲がってしまい、歩きにくい

令和6年度 診療実績 疾患別入院患者数

順位	病名	件数
1	パーキンソン病	50
2	運動ニューロン疾患等	41
2	免疫介在性・炎症性ニューロパチー	41
4	基底核等の変性疾患	35
5	脳梗塞	28
6	重症筋無力症	27
7	脳脊髄の感染を伴う炎症	21
8	多発性硬化症	19
9	視神経脊髄炎スペクトラム障害	12
10	肺炎等(市中肺炎かつ15歳以上65歳未満)	11
10	誤嚥性肺炎	11
	その他	86
	総数(退院患者数)	382

脳神経内科 スタッフ紹介



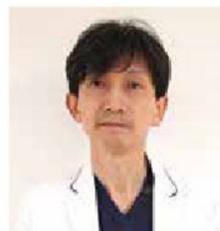
左から佐藤智香医師副医師、水戸泰紀部長、穴田麻真子医師

新任医師のご紹介

(令和7年10月～)

今年10月より赴任された医師をご紹介します。

整形外科



整形外科 副部長
わたなべ なおや
渡辺 直也

令和7年10月から市立札幌病院に勤務させて頂いている渡辺直也と申します。主に上肢の整形外科疾患を担当させて頂いております。残念ながら肩関節は専門外のため手術をはじめとした専門的な診療はできないのですが、肘から手にかけての一般的な疾患でしたらお役に立てることがあるかもしれませんので、ご相談頂けたらと存じます。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

資格等

日本整形外科学会整形外科専門医、日本整形外科学会運動器リハビリテーション認定医、日本手外科学会手外科専門医

救命救急センター



もりき こうよう
森木 耕陽

この度、救命救急センターに着任いたしました森木耕陽と申します。これまで救急医療を中心とした診療に携わってまいりました。地域の皆様の医療に少しでも貢献できるよう、これまでの経験を活かし、患者様一人ひとりに救急医療を提供できるよう尽力いたします。地域の医療機関の皆様と連携を取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

資格等

日本救急医学会専門医

消化器内科



とよしま かい
豊島 魁

この度、消化器内科に着任いたしました豊島魁と申します。9月まで北海道大学病院で勤務しておりました。消化器内科医として地域医療に貢献できるよう努めます。どうぞよろしくお願いいたします。



連携医療機関のご紹介

皆様には、日頃より温かいご支援とご理解を賜り、心より感謝申し上げます。

当院は、1960年に現在地(札幌市中央区南11条西8丁目)に創設されました。その後、『温情は萬病を拭す』(温かい心こそが医療者にとって大切なものである)の理念を掲げ、65年の歳月を経て、現在、120床の内科病院として運営しています。

内科、消化器内科、内視鏡内科、胆のう膵臓内科、緩和ケア科を標榜、内科一般を広く診療しております。受診がしやすく、ワンストップで問題解決し、必要があれば、市立札幌病院をはじめ、市内の総合病院と連携し、適切な科に紹介する方針を打ち出し、地域住民の皆様のため、プライマリーケアに力をいれています。

すべての常勤医師が消化器病学会や消化器内視鏡学会などの認定医、専門医、指導医であり、とくに平山院長は、道内では、数少ない胆膵科の指導医です。胆膵領域の診断に必須なMRI、および超音波内視鏡を装備しています。胃カメラ、大腸カメラ、腹部超音波検査、CT、MRIなどの必要な検査をお待たせせずできることをモットーに諸検査がすぐに行えるよう院内体制を整備しております。(とくに胃カメラ、腹部超音波検査、CT、MRIは当日検査可能です。)



リハビリテーションスタッフ

入院では、チーム医療で診療に取り組んでいます。リハビリテーションのスタッフは、PT6名、ST1名、OT2名が在籍しており、運動器、脳血管、心血管、呼吸器、廃用リハビリをはじめ、がんリハビリ、そして、摂食嚥下訓練も行っております。

緩和ケア科では、緩和ケアチームを組織し、入院患者様の疼痛コントロールのほか、外来通院してこられる患者様の緩和ケアにも対応しております。医療相談室には、看護師2名とMSW1名が在籍しています。疾患によっては、長期入院も可能ですのでご相談ください。

これからも地域の皆様のニーズと患者様のために最良のケアを提供できるよう努力してまいります。

医療法人社団銀杏会

さっぽろ銀杏会記念病院



左から堀田美紀医師、川西譲児理事長、藤井重之副院長、平山敦院長

●交通案内

住所：〒064-0811
札幌市中央区南11条西8丁目2番25号
TEL：011-511-2060 FAX：011-562-6578

アクセス



●診療時間

月・火・金 9:00～16:30(受付16:00まで)
※昼も継続して診療しています。

水・木 9:00～12:30(受付12:00まで)
13:30～16:30(受付16:00まで)

休診日 土曜、日曜、祝日、年末年始

●病床数 120床

ホームページ：https://ginnankai.jp/

第2回 市民公開講座 開催報告

開催日 2025年10月29日(水)

テーマ 尿酸値が高いとは～痛みだけではない忍びよる内臓への影響～

講師 市立札幌病院 理事・副地域連携センター長 片岡 浩(リウマチ・免疫内科)



第2回の講師 片岡理事から、尿酸値が関係する痛風や高尿酸血症など、基礎的な知識や日常生活で注意すべき点などを市民向けにお話しました。当日は43名の参加があり、質疑応答では多くの質問があり、閉会後も片岡理事へ質問する方が並ぶほどで、関心の高いテーマでした。アンケート結果では9割以上が満足されたと回答し「わかりやすい説明だった」「明日から食事を気をつけようと思った」等の意見があり、市民の健康維持、増進に繋がったと考えます。

桑園地区連携懇話会 開催報告

開催日 2025年11月6日(木)

テーマ 明日から活かせる認知症ケア

演題① 「高齢者と脱水」 発寒リハビリテーション病院
看護部長 老人看護専門看護師・緩和ケア認定看護師 三浦直子 先生

演題② 「レビー小体型認知症の診断とケアについて」
市立病院前老年内科メモリークリニック 院長 中野正剛 先生



三浦直子先生



中野正剛院長先生

市立札幌病院 講堂にて桑園地区連携懇話会を開催しました。「明日から活かせる認知症ケア」をテーマに、市立病院前老年内科メモリークリニックの中野正剛先生と、発寒リハビリテーション病院 三浦直子先生にお話していただきました。45名の参加があり、アンケート結果では9割が「専門的な知識・技術を学ぶことができた」と回答があり、「認知症の理解が深まりました」「内容がわかりやすかった」と満足度の高い内容でした。

市立札幌病院

Dr to Dr 患者紹介専用ダイヤル ▶ Tel: 011-788-6570

(緊急時: 24時間)

ご利用方法

※医師よりお電話をいただき、ご指定の診療科または医師をお伝え下さい。電話交換より担当医師におつなぎ致します。
※診療科の選定に迷う場合は「総合臨床センター」をご指定ください。熟練の指導医と研修医が協働して診療にあたります。
※土日祝、夜間(17:15~8:45)は当直医師が対応致します。

患者ご紹介のお電話

電話交換

※ご指定の診療科または医師をお伝えください

担当医師へ

※土日祝・夜間は当直医師が対応

※なお「緊急時」以外の新患外来予約は下記をご利用ください。

- 地域連携センター TEL:011-726-7831・FAX011-726-7832(平日8:45~17:00)
- 札幌市医師会 地域医療室 TEL:011-707-7705・FAX011-707-7706(平日9:00~17:00)



編集後記

我が家には紅葉があります。毎年、今年は綺麗に色づくかなと秋を楽しみにしておりますが、11月に急な寒気と積雪があり、「雪が積もって紅葉が折れてる!」と家族に言われて急いで見に行きました。雪が紅葉を覆っていましたが、雪を降ろすと枝は折れておらず、赤と黄色が入り交じった紅葉ができていました。また、雪の重みで枝が絶妙な広がりを見せ、白い雪が紅葉の色を映えさせていました。咄嗟に携帯で撮ったのが右の写真です。

このあと近隣で頻繁に目撃されている熊に警戒しながら雪囲いをしました。熊さん、春になっても山で生活してください。今年は熊対策が進むことを切に願うばかりです。(記・志田)

